

さくま誠 便い

2017年春季号
名寄市西5南12
さくま誠 後援会
☎ 01654-3-9260
発行責任者
菅野 孝

全会計432億1207万6千円を可決

「平成29年度予算審査特別委員会」

平成29年の名寄市議会第1回定例会は、2月24日～3月17日までの日程で開催され、条例案10件、補正予算9件、予算案9件、その他1件、意見書案5件を審議するとともに、新年度予算案については予算審査特別委員会で審議し可決。また、3月7日の代表質問では2人、8日、9日の一般質問では9人が市政の課題について質問しました。

佐久間議員は3月9日に一般質問にたち①福祉サービス事業について、②有害鳥獣駆除対策について、③JR宗谷本線問題についての3項目9点について質問し市の対応を求めました。

臨時福祉給付金支給で

窓口手続きの簡素化を

問 低所得者への消費税還付を目的とする臨時福祉給付金支給について、煩雑な手続きを苦手とする高齢者もいる事から簡素化はできないのか？

また、現金での

支払い要望時に

は、金融機関の

口座番号写しは

不要ではないか？

答 受付事務の簡

素化について市民

の負担が少なくなるよう事業を

進めていきたい。一指摘のおお



り、現金での支払い要望時には金融機関の口座番号写しは不要である。

高齢者の「通いの場」増設を

問 高齢者の社会参加と生きがいづくりなどを通して「通いの場」の増設について本市の考え方を伺いたい。

答 新年度より新たに「通いの場」を実施する団体・個人に運営費の助成制度を設けた。設立助成として4万円を上限、活動助成として6万円を上限に会場使用料や保険料などの助成を行う。

健康増進に

パークゴルフ場の

有効活用を

問 名寄市には5つのパークゴルフ場があるが、市が予算付けをし整備されている所と、手の届いていない箇所がある。

天塩川河川敷コースと、名寄川コースについて草刈りなど最低限の維持費は「福祉の観点」からも予算付けし、高齢者人口の

増加に対応する必要があるのではないかと？

答 この2か所の維持管理は市が実施しているが、パークゴルフの愛好会の方の大変熱心なご協力を頂いている。

「福祉の観点から現在の水準以上の管理を行うための委託費の増額を」ということについては、無料施設として設置していることから既存の有料施設と区別化を図る上で現行の管理水準を維持して行きたいと考えているのでご理解願いたい。



◇議会報告会 二組で開催します。

4月17日

1時30分 名寄市総合福祉センター

6時30分 智恵文多目的研修

センター、名寄東小学校

4月18日

1時30分 ノースタウンふれあ

い会館

6時30分 風連地域交流セン

ター、名寄市民文化セン

ター * 二組揃ってください。

農産物の

有害鳥獣被害を防げ

問 名寄市の鹿などによる農産物の被害について、面積、被害金額など現状を伺う。

答 平成27年度の被害面積は90・3ha、被害額概算で千5百12万5千円となっている。スイートコーン、水稻の被害が大きい。

問 鹿のハコ鼠購入等への行政の支援を考へてはどうか？

答 駆除活動は名寄市有害鳥獣被害防止対策協議会で取組んでいるが、エゾシカの駆除についてハコ鼠による取組は現在行っていない。今後、ハコ鼠の有効性について協議会において研究して参りたい。また、鼠等の導入に係る国の道の支援策としては、個人に対しては現在ないのでご理解願いたい。

問 近年急増している特定外来生物のアライグマ駆除について報奨金を新設し、防除対策を進めては如何か？

答 アライグマは、年々捕獲頭数や地域も増えていることから、農業者の方が駆除に取組めるよう「防除従事者講習会」を開催するとともに、ハコ鼠の貸し出しで対応して参りたい。報奨金の新設は現時点で考えていない。



*急増するアライグマ
農畜産物被害は深刻だ

広域連携での

有害鳥獣処理は？

問 中川町では鹿の資源活用を取組んでいる。名寄で捕獲した鹿を資源提供し処理コストを低減してはどうか。

答 食肉等への原料とするためには生きたまま搬送する必要があり、原料としてのニーズがあるか、捕獲法を変えた時の負担や効果について調査が必要。

JR宗谷線の維持・存続を

地域経済に大打撃を与えるJR北海道、とりわけJR宗谷線（名寄・稚内間）の維持・存続問題について、この間連続して質問・提言を行ってきた。道の鉄道ネットワークワーキングチームの報告を受け、優先順位を付ける形になったが、全道の関係自治体間の結束を高める運動を求めた。「道、並びに協議会構成自治体と連携し、全道沿線自治体の動向も注視し進めたい」との回答を得た。

粒々辛苦



▼北海道の長かった冬に春の陽ざしがふり注ぎ、街並みにはいくらかの雪を残すだけになった。山のふもとを散策すれば、そろそろ何処かに薄緑色のふっくらと芽吹いたフキノトウに出会えるころだ。こんな季節は心を弾ませてくれる▼早いものでわたしも当選以来一期目の折り返し（2年目）を迎えた。市民要望を議会に届け、先人たちが築いてきた名寄市にさらに磨きをかけ、住み良い

マチへの思いでこの間走り続けてきた。▼如何せん要望実現には財政がからむ。「財源がなければ、知恵を使う」不要と思われる事業は見直しをかけ、真に市民に喜ばれるものに絞り込む。▼立派な大学図書館も先般オープンした。5月からは市民にも開放される。「知の拠点」として大いに活用してほしい。学習環境がグリードアップし、学生たちにも快適な空間が実現したことは喜ばしい。▼3月末には下の子たちが引越したことから、千歳と札幌の孫の顔を見がてら訪ねた。行ったときはいいが、帰りには孫の大泣きに合い（ありがたいこと）別れ辛いものがある。▼男の孫と、女の孫では泣き方も違う。帰るといって、娘はいきなり大泣き、男孫は、グッと唇をかみしめ、「帰っちゃダメ」と眩き、男泣きになく。▼街の中には新一年生やら、中学に進級したでピカピカの制服姿の子供たちと出会う。我孫も、たちまちこんな風になるであろう。あの子もこの子も胸いっぱい夢をふくらませ、元気にたくましく育ってほしい。

